

研究 主題	社会的な見方・考え方を働きかせ、自分の考えを表現する児童の育成 一小学校社会科における身近な地域素材を活用した問題解決的な学習過程の充実を通してー
----------	--

## 第5学年社会学習指導案

指導月日 令和5年10月30日

所属校名 大和町立小野小学校

氏名 中津川 智

### 1 小单元名 これからの食料生産とわたしたち（東京書籍 新しい社会5上）

#### 2 小单元の目標

- (1) 食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、まとめ、新しい食料生産の取組を理解することができる。 [知識及び技能]
- (2) 食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して、問い合わせができる。 [思考力・判断力・表現力等]
- (3) これからの食料生産について、主体的に問題解決しようしたり、よりよい社会を考え学習したことなどを社会生活に生かそうとしたりする。 「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 小单元観（題材観）

我が国の農業や水産業における食料生産とは、米、野菜、果物などの農産物や畜産物を生産する農業や、魚介類を採ったり養殖したりする水産業を指している。我が国の食料生産の概要に関する内容と食料生産に関わる人々の工夫や努力に関する内容から、食料生産は自然条件を生かして営まれていること、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることが理解できるようにすることが大切である。

本小单元は、学習指導要領の内容（2）ア（ア）（ウ）及びイ（ア）に該当し、我が国の食料生産の課題に関する内容について学習を行う。

ここでは、我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目させる。地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめて食料生産の課題を捉え、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにすることが主なねらいである。しかし、食料自給率を上げたい一方で、既習の課題である農業・水産業の担い手が減少していることにも触れることで、日本の食料生産の課題に関して社会的な見方・考え方を働きかせられると考える。また、教科書では生産者の立場から紹介されていることが多いが、消費者の立場から食料生産の背景を考えさせることが大切である。小单元のまとめとして、これからの日本の新しい食料生産の取組を学習する。食料生産の新しい取組を知るだけではなく、その取組の中で、今後の日本の食料生産で特に大切にするべきことは何なのかについて考えさせたい。社会的な見方・考え方を働きかせながら、これからの日本で特に大切にするべき食料生産の取組について自分の考えを表現するための時間も設けたい。

#### 4 児童の実態 [第5学年3組31名]

これまでに児童は、「くらしを支える食料生産」では、日本の主要な食料品の種類と産地について学んできた。主な内容としては、日本では昔から米作りや漁業が盛んで、それ以外にも地域ごとの自然条件を生かした野菜や果物、畜産物を生産していることである。しかし、農業では農作業の機械化に

よって作業時間が短縮されてきているにもかかわらず、担い手が減少し続けていることが課題であった。水産業では、漁獲した魚だけの出荷ではなく、すり身やかまぼこといった様々な加工をしてから出荷したり、養殖・栽培漁業で持続可能な漁業を進めたりしている反面、200海里水域の影響で遠洋・沖合漁業の生産量の減少、農業と同様に担い手が減少し続けているという共通した課題があった。児童からは、「機械化で効率的に作業ができるようになってきたのに、農業や水産業をしようとする人が少なくなっているのは意外」「これから日本の食料生産は大丈夫なのか心配」という声が多く聞かれた。児童にとって予想外の日本の食料生産の課題を知ったことで、本単元についての関心が高まったと考えられる。同小単元の第2時に実施した授業実践Ⅰでは、日本の米作りの主要な産地の学習で、「研究主題との関連」の項で後述する三つの手立てを用いた。社会的な見方・考え方を働かせることができるものとして、宮城県の米の品種を実物で提示した。ICTの活用により自分の考えを生み出し、表現する活動の充実として、Google Jamboardを使った。共有シート上で、児童が友達の考えと自分の考えを比較し、より考えを深められるようにした。問題解決的な学習過程の充実として、自作教材を作成した。米作りの主要な産地である東北地方と北海道で米作りが盛んな理由に、昼夜の寒暖差が関係していることに気付かせるために、関東地方と東北地方・北海道の気温差を比べる資料にした。授業実践Ⅰ後に行なった事後アンケートの中で、宮城県の米の品種を始めとした身近な地域素材の活用に関しては27名の児童が「身近な例で興味が持てたからよかった」と回答した。Google Jamboardで互いの意見の共有を図ったICTの活用に関しては23名の児童が「自分の考えを他の班の友達の考えと比べられたからよかった」と回答していた。社会科の学習で、新たな単元の学習の中でも既習事項を生かして社会的な見方・考え方を働かせたり、ノートやクラウド上の共有シートなどで自分の考えを表現したりする場面がGoogle Jamboardを活用する前より見られるようになった。しかし、問題解決的な学習過程の充実のために自作教材を活用したことに関しては、12名の児童が「グラフから読み取る内容が難しくて分かりにくかった」と回答していた。問題解決的な学習過程を充実していくためには、自作教材においても、社会的な事象の特色や相互の関連、意味について、児童が考察しやすいように工夫していく必要がある。

## 5 指導観

本小単元では、第1時で日本の食料生産の課題として米余り、輸入の増加、農業や水産業で働く人の減少といった様々な課題があることを理解する。第2時では、食生活の変化と食料生産の関係を捉える中で食品ロスの問題に触れる。本学級の児童は、偏食が原因の残食が見られる。本校では、栄養士による食育授業が毎年あるものの、食事の大切さについてなかなか浸透できていない現状がある。多くの食品を輸入する一方、大量の食品ロスが発生していることを知ることで、自分たちの食生活の在り方を振り返るきっかけにできると考える。第3時では、消費者の食の安全・安心への関心の高まりから、食品別のトレーサビリティの取組や検疫所での輸入食品の検査の取組を行い、食の安全・安心の確保が進められていることを理解する。本学級の児童は、3学年時の校外学習で地域の農家の訪問をしている。そこで、牛の耳についていた個体識別番号タグがトレーサビリティの取組だったことを想起させつつ、学習の理解を深めたい。第4時では、輸入が多い日本が、安定した食料確保のために、地産地消に取り組んでいることを学習する。ここでも3学年時の校外学習で訪問した地域のスーパーマーケットにあった地産地消コーナーを想起させつつ、学習の理解を深めさせていく。また、第5時の食料生産の新たな取組を調べる学習では、教科書の事例ではなく、自分たちの住む大和町で実際に行われている事例を取り上げることで、教科書にある社会的事象が自分たちにとって縁遠い事柄ではなく、もっと身近な事柄であることを自覚させることができる。それによって、児童にとって社会科の学習内容がもっと身近なものになり、学習意欲が喚起されると考える。また、社会的事象同士を比較する中で「社会的な見方・考え方」が働かせることができ、社会的事象同士の繋がりを理解しやすくなれば、社会的事象の特徴や傾向について、自ら思考を深め、自分の考えを表現することができるようになるのではないかと考える。また、食料生産の新しい取組を学習した後に、その取

組の中でこれから日本の食料生産で特に大切にしていくべき取組について自分の考えを表現する第6時を設定する。社会的な見方・考え方を働かせながら、日本の食料生産の将来について自分の考えを表現することができると言える。

## 6 研究主題との関連

本研究は、身近な地域素材を教材として活用することで、食料生産の今日的課題における事象や人々の相互関係に着目させ、児童に「社会的な見方・考え方」が働くことができ、その社会的背景や自然条件との関わりを関連付けて考えさせることを目指すものである。その実現に向けて、以下の三つの手立てを講じていく。

### (1) 社会的な見方・考え方を働かせられる身近な地域素材の活用

第5時のこれから食料生産の新しい取組について、教科書の事例ではなく、大和町の事例を取り上げることで、学習内容についての関心を高めるとともに、自分たちの住む町の新たな魅力に気付くことができるようとする。

### (2) I C Tの活用により自分の考えを生み出し、表現する活動の充実

Googleスライドを使って、自分の考えをそれぞれのシートにまとめたり、グループで共有のシートを共同編集したりして、児童同士で互いの考えをスクリーン上で瞬時に共有できるようにする。自分のグループや他のグループの友達の意見に触れることで、自分の考えが深められるようとする。

### (3) 問題解決的な学習過程の充実

社会的事象同士のつながりに気付かせる資料等の提示を行う。提示した資料等から、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりすることで自己の考えを表現させる。

## 7 小単元の指導と評価の計画

### (1) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報をを集め、読み取り、まとめ、新しい食料生産の取組を理解している。</p> <p>②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。</p>	<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して、問い合わせを見だし、新しい食料生産の取組について考え、表現している。</p> <p>②食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことを基に、消費者や生産者の立場を踏まえて、これからの農業や水産業の発展について考え、適切に表現している。</p>	<p>①これから食料生産について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。</p>

## (2) 単元の全体計画（6時間扱い 本時5／6）

時	主たる学習活動	評価規準	評価方法
1	食料自給率のグラフや表等に着目し、話し合うことを通して日本の食料生産の課題について学習問題を作る。	食料の輸入の増加が食料生産に与える影響や食料の安定確保について調べる学習問題を考え、表現している。 【態度①】	発言・発表ノート
2	食料自給率と食生活の変化について関連付けて調べ、自分たちの豊かな食生活が大量の輸入品で支えられていることを捉える。その一方で食料自給率が下がっていたり、大量の食料が廃棄されていたりすることについて自分の考えを表現する。	食料輸入の増加の影響や課題について、グラフや写真などの各種資料から的確に読み取り、考え、表現している。 【思判表①】	発言・発表ノート Googleスライド
3	食の安全・安心への取組について、スーパーマーケットではトレーサビリティ等の取組、検疫所では輸入食品の検査などをしながら食の安全・安心の確保に努めていることを理解する。	安定して食料を確保していく上で不安な点や大切な点について、食の安全・安心への取組について理解している。 【知技①】	発言・発表ノート
4	表やグラフ、地産地消への取組などから調べたことを文などにまとめ、食料を安定して確保することが重要な課題であり、食料自給率を上げることが大切であることを理解する。	食の安全・安心の確保、食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。 【知技②】	発言・発表ノート
5 本 時	大和町の新しい食料生産の取組について調べ、生産者と消費者のそれぞれの立場から、これからの食料生産で大切にするべきことについて自分の考えを表現する。	新しい食料生産の取組について生産者と消費者のそれぞれの立場から、今後の食料生産で大切にするべきことを各種資料から的確に読み取り、考え、表現している。 【思判表②】	発言・発表ノート Googleスライド
6	食料生産の新しい取組が、これからの食料生産とどう関わっていくのかについて、これまで調べたことを基に文などにまとめ、自分の考えを表現する。	調べたことを基に文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることについて考え、表現している。 【思判表②】	発言・発表ノート Googleスライド

## 8 本時の計画

### (1) 目標

食料生産に関する大和町の新しい取組から、これから日本の食料生産で大切にすべきを考え、表現することができる。

### (2) 本時の指導に当たって

教科書にある他県の事例ではなく、児童の生活している大和町の事例を取り上げることで、本時の学習が自分の生活と関連していると感じられるようにして、「食料生産の新しい取組について調べよう」という本時のねらいをつかませたい。グループごとに異なる大和町の食料生産に関する配付資料を渡し、どのような取組なのかについて個人で調べていく。自分の考えをノートに書いた後に、それを基にしてグループごとに話し合わせ、互いの意見の比較・検討を行う。話し合った意見を、グループごとにスライド上にまとめていき、話し合ったことを基に更に自分の考えを再構築し、ノートに書く。グループごとにまとめた考えを発表し合うことで、日本のこれから食料生産で大切にしていくべきことについて、既習の課題と関連付けながら捉えられるようにする。

### (3) 学習過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点 □評価
導入 7分	<p>1 前時までに学習した日本の食料生産の課題と取組を想起する。</p> <p>○日本の食料生産にはどんな課題がありましたか。        ◆食料自給率が低い。        ◆農業や水産業で働く人が減少している。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <p>○食料生産についての新しい取組をいくつか紹介します。これは日本のどこで行われていると思いますか。        大和町の事例資料の提示（手立て①）        ◆東京都。        ◆宮城県。</p> <p>○今紹介した取組は全て大和町で行われています。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の新しい取組について、生産者と消費者それぞれの立場から考えよう。</p>	一斉	<p>◎これまでに学習した食料生産の新しい取組について振り返ることで、本時ではそれ以外の取組について学習するという予想ができるようにする。</p> <p>◎児童にとって身近な地域素材を提示することで、学習内容への関心を高めるとともに、自分たちの住む町の新しい魅力にも気付くことができるようとする。</p> <p>◎大和町の取組についてのヒントを示す資料（キーワードあり、4種類×2枚ずつ＝8グループ分）を各グループに配付し、本時の学習の流れを確認する。</p>
展開 33分	3 なぜこのような取組をしているのか、自分の考えをノートに書く。	個別	<p>◎食料生産の新しい取組の理由について、よく考えられるように、ここで最初の自分の意見を書いておく。</p> <p>◎ここで自分の考えを書けなくても、次のグループごとに考えをまとめる活動で友達と考えを交流する中で、自分の考えを持つことができるようとする。</p>

	<p>4 自分のグループの資料について、どのような取組なのかを調べ、グループごとに考えをまとめる。</p> <p>○自分のグループの資料について、どのような取組なのか、今から配る資料で調べてみましょう。調べたことをグループごとにスライドにまとめましょう。</p> <p>問題解決的な学習過程の充実（手立て③）</p>	グループ	<p>◎スライドの入力例で、先に入力の仕方を説明した後に、封筒に入れた各グループの資料を配り、中身を確かめさせる。</p> <p>◎それぞれのグループごとに Google classroom にスライドへのリンク先を提示しておき、スムーズに取り組めるようにする。</p> <p>◎配付資料で調べ学習を行い、取組の概要について調べができるようになる。</p> <p>◎生産者目線の内容だけでなく、消費者目線からの内容についても触れてあるページを用意しておく。</p>
	<p>Google スライドの活用（手立て②）</p>		<p>◎自分で考えたことを基にして、グループで話し合わせる。Google スライドを活用して、グループごとのシートにそれぞれ入力させ、互いに意見の比較・検討の材料とさせる。</p>
	<p>5 グループでまとめた大和町の食料生産の新しい取組についての考えをクラス全体で発表する。</p> <p>○スライドにまとめたグループの考えを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「舞ちゃん舞茸」を生産しているだけではなくて、加工も販売も自分たちでしている。</li> <li>◆「七ツ森サーモン」は手間を掛けてブランド化されたサーモンだから、値段が高い。</li> <li>◆「伊達いわな」は、養殖されているから持続可能な漁業だ。</li> <li>◆「郷の有機」は、環境に優しい原料を使った肥料だから、これを使って育てた米は環境保全米。</li> </ul>	一斉	<p>□生産性や品質を高め、食の安全・安心を確保する工夫を生産者と消費者の立場から考え、表現している。</p> <p>【思判表②】</p> <p>◎グループごとに、事前に発表する人を決めさせておき、スムーズに発表が進行するようにしておく。</p> <p>◎発表するグループのスライドをスクリーンに映して、キーワードに下線を引くなどして、互いに意見の比較・検討の材料とさせ、児童の考えが深まるようにさせる。</p> <p>◎どうしてこのような取組がされているのかについて考えさせることで、生産性や品質を高める工夫を生産者と消費者の立場から考えられるようにする。</p>

	6 本時のまとめをする。  これらの取組によって、 ・生産者は持続可能で安全・安心で高品質な食料を、消費者に提供できる。 ・消費者は、安全・安心で高品質な食料を購入できる。	一 斉	
終 末 5 分	7 次時の内容を予告する。 ○次の時間は、これから食料生産について考えていきます。今日学習した4つの取組は、これからの食料生産とどう関わると思いま すか。次の時間まで考えておいてください。	一 斉	◎4つの取組が、これから食料生産とどう関わっているのか見当を付けられるようにする。

## (4) 本時の評価

評価の観点	十分満足できる（A）	努力を要する児童（C）への手立て
思考・判断・表現	必要な情報を的確に読み取り、生産性や安全性、品質を高める工夫を生産者と消費者の立場から考え、今後の食料生産で大切なことについて自分の考えを表現することができる。	資料の着目すべきところを補足説明し、生産性や安全性、品質を高める工夫について、自分の考えに当たるものが見付けられるようにする。

## (5) 準備物

- ①教師：教室用ノートPC、タブレット端末、Google classroom、Google スライド、スクリーン、各種提示資料、調べ学習用の配付資料  
 ②児童：ノート、タブレット端末

## (6) 板書計画

地域の新しい取組について、生産者と消費者それぞれの立場から考えよう。	提示資料② (七ツ森サーモン)	提示資料④ (郷の有機)
<なぜ新しい取組をするのか> 生産者→大和町の特産物でPR 消費者→新しい商品がほしい	(例) ブランド化をすることで 高い価格で売る	(例) 環境に優しい肥料→安心・安全な作物
提示資料① (舞ちゃん舞茸)	提示資料③ (伊達いわな)	これらの取組によって、 ・生産者は、持続可能で安全・安心な食料を、消費者に提供できる。 ・消費者は、安全・安心な食料を購入できる。